

# 病院実習を終えて

大食3 東浦弘江

小学校，寮，学生食堂，工場の集団給食，保健所の栄養実習を終え最後に栄養士として一番やりがいのあると思われる病院実習に行つた。

京大付属病院とあつては，さぞ最新式の設備と食餌療法が実施されそこには活動的な栄養士さんの姿を想像し不安と緊張のうちにも一抹の期待をもつて臨んだ。

今までの集団給食と一番異つた点は，一般調理と特別調理に別けられ，特別調理には各台ごとに栄養士が担当し食餌療法が最も実施されていた。私達は 一台に2日づつ実習し食餌療法の実際を全体的に知る事が出来たのは 大変良かったと思う。

食餌療法の実際を見て，高度に発達した最新の医学をもつてしても治療する事がむずかしい糖尿病，腎臓病等を食餌療法によつて治療してゆくところにやりがいがあり，専門的な力が発揮でき，栄養士としての存在価値を再確認することが出来た。実のところ保健所を除いては，何か栄養士と調理師の中間的性格が強く，あるときには，営利主義的な嗜好を重んじたやり方には，不満と栄養士の必要性にすら疑問をもたざるを得なかつた。この事は，病院や保健所とは違つて健康者を対象としているところによるものであるかもしれないが。医師からの食餌箋に基づき消化吸収等を考えながら制限範囲内のより効果的な献立とその調理方法のむずかしさを痛感し，専門知識はもとより経験が大いに要求される事を知つた。専門的知識に基づいた献立作成をしそれを如何に患者さんに食べさせるか。患者さんの身になり一日でも早く治療出来るように始終気を配らなければならないと深く思つた。

設備は決して良くない所で決められた時間内で決められた人数の食事を作るには計画性と意志，忍耐力と体力の必要性を身にしみ味わつた。

まだまだ色々な事を知り，つくづく栄養士のむずかしさを知り，同時にこんな自分に栄養士が適しているだろうかと改めて自分を見つめた次第でした。